

世界で最も持続可能性のある企業100社発表

◆ “Global100 Most Sustainable Corporations in the World” 発表

2019年1月、ダボス会議（正式名称：世界経済フォーラム年次総会）で、毎年恒例の「世界で最も持続可能性のある企業100社 “Global 100”」が発表された。

“Global 100”社は、世界の年商10億ドル以上の企業を対象とし、①サステナビリティ情報開示、②財務の健全性、③製品カテゴリー（タバコ、武器、食肉などの除外カテゴリー以外）、④罰金など受けた制裁、の4段階のスクリーニングを通過した企業について、スコア付けされて選ばれる。

今年の上位10社は次の通りであった。

2019年 順位	昨年 順位	社名	分類カテゴリー	国名	評価 スコア
1	66	クリスチャン・ハンセン	バイオ	デンマーク	83.0%
2	47	ケリング	アパレル	フランス	81.6%
3	2	ネステ	石油精製	フィンランド	80.9%
4	70	エルステッド	電力卸売	デンマーク	80.1%
5	53	グラクソ・スミスクライン	医薬品	英国	79.4%
6	-	プロロジス	不動産	米国	79.1%
7	95	ユミコア	金属	ベルギー	79.1%
8	49	ブラジル銀行	金融	ブラジル	78.1%
9	46	新韓ファイナンシャルグループ	金融	韓国	77.8%
10	74	TSMC	半導体製造	台湾	77.7%

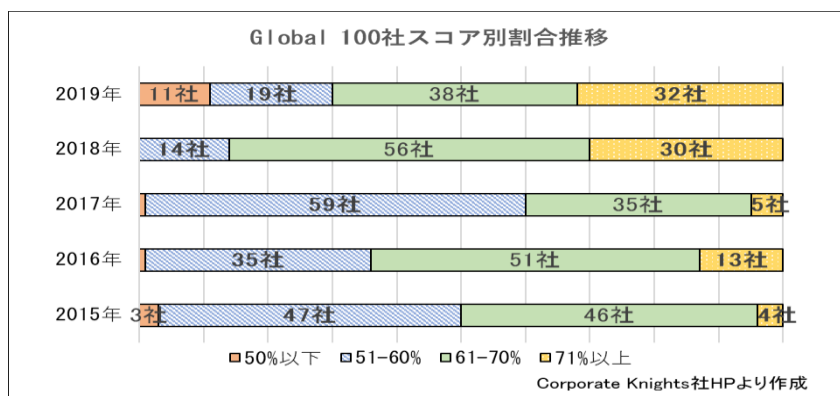
Corporate Knights HPより作成

スコア付けは開示されたサステナビリティ情報をもと、21指標につき行われる。業界による有利、不利をなくすために、各業界の優先指標を定めたり、MSCI（注）のACWI（世界株式指数）の割合を参考に、各業界から選ばれる企業数を決めるなど配慮がなされている。

（注）モルガンスタンレーインターナショナル。同社の株式指数はベンチマーク指標とされることが多い。

今年の上位10社に2年連続でランクインしたのは3位のネステ1社であり、近年、ランクイン企業の入れ替わりは大きい。100社のうち、約半数の46社が昨年圏外からのランクインであった。毎年、評価項目の修正などがあり、過去のスコアとそのまま比較することはできないが、過去2年は30社以上が70%以上の高スコアとなるなど、選ばれる100社のスコアは高くなる傾向にある。より多くの企業

でサステナビリティ関連の取り組みや情報開示が進んでおり、それゆえに全体的にスコアが底上げされ、ランクインのハードルが上がっているようだ。



◆日本企業は8社がランクイン

日本勢は、エーザイ (73位)、武田薬品工業 (78位)、横河電機 (82位)、積水化学工業 (89位)、花王 (92位)、トヨタ自動車 (95位)、コニカミノルタ (96位)、パナソニック (100位)の8社が選ばれた。このうち武田薬品工業と積水化学工業は2年連続のランクインであった。全社とも下位ではあったが、企業数は過去3年連続の4社から倍増した。国別で見ると、米国22社、フランス11社に次ぎ、3番目に多いという結果であった。

◆“The 2019 Global 100”は長寿で、リターンが高い企業

今年の“Global 100”社の分析レポートによると、“Global 100”社はベンチマーク指標であるACWIの企業と比較して、①長寿 (約1.4倍)、②投資のリターンが高い (+9.1%)、③CEO報酬率が低い (約半分)、④環境にやさしい (CO₂排出量1t当たりの売上金額 約1.5倍)、⑤女性取締役比率が高い (+8%) などの特徴がある。特にライフスパンの長さや投資のリターンの高さが注目に値している。

比較項目(抜粋)	Global 100	ACWIの企業
①企業の平均年齢	87歳	63歳
②過去15年間の実質投資リターン	127.35%	118.27%
③従業員平均賃金に対するCEO報酬率	76倍	140倍
④CO ₂ 排出量1トン当たりの売上金額	23.8万ドル	15.7万ドル
⑤取締役の女性比率	27%	19%

Corporate Knights社HPより作成

【石井由紀】